

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：いいじまルーテル保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：実方 かづえ	定員（利用人数）：60名（53名）
所在地：〒244-0842 横浜市栄区飯島町48-1	
TEL：045-895-8780	ホームページ：https://ikusosu.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2011年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人イクソス会	
職員数	常勤職員：12名 非常勤職員：20名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 19名 看護師 1名
	栄養士 1名 幼稚園教員免許者 18名
	小学校教員免許者 2名 中学校・高校教員免許者 3名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）
	乳児室
	保育室

③理念・基本方針

<理念>

●キリスト教の理念に基づき多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重し、総合的に提供されるよう創意工夫をすることにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的とする。

<基本方針>

●ユネスコが提唱した「生涯教育」を念頭に置いて、『誕生から学齢期までの一貫保育』を意図しています。更に児童憲章とキリスト教精神を基にして保育所保育指針、モンテッソーリ幼児教育を以て当園独自の保育を勧めています。

<保育理念> ～イクソス会が大切にしていること～

●私たちの保育園は、キリスト教主義です。ですからイエスが言われた言葉、「人にしてもらいたいと思うことは何でもあなたがたも人にしなさい。」この言葉の実現を目指して、子ども達の必要を自分のことと考えて保育をしています。また、一人一人の成長のために、必要な訓練となる、モンテッソーリ教育法を実践しています。

④施設・事業所の特徴的な取組

●いいじまルーテル保育園は、社会福祉法人イクソス会（以下、法人という）が待機児童解消の目的を含めて平成23年4月に新設した保育園です。定員は60名（内、乳児定員は27名）とし、教会及び法人本部のある大船ルーテル保育園（昭和42年期初）は、待機児童解消に向けて平成3年に定員変更（増員）を含めて定員190名となりましたが更なるニーズを踏まえ、大船ルーテル保育園から1 km強の栄区飯島町に姉妹園としていいじまルーテル保育園を設立しました。以前の飯島町は公団（現UR）飯島団地等、団地ブーム時代は子どもが多く活性を図っていましたが、52年経た現在は飯島団地の高齢化も進んでいます。しかし、大船駅の再開発に伴い、飯島団地はリニューアルが図られ若い世代も徐々に戻り、更に本線大船駅へ2 km圏内、戸塚、東京へのアクセスの良さもあり、相変わらず待機児童は増えつつあり、いいじまルーテル保育園への期待は大きいものがあります。

●いいじまルーテル保育園の良さ、保育の特徴は、ユネスコが提唱した「生涯教育」を念頭に入れ、0歳から就学前までの一貫保育を心がけ、児童憲章とキリスト教精神を基にし、保育所保育指針、モンテッソーリ幼児教育（乳児も含む）を併用した保育を進めています。また、次世代育成を中心にした子育て支援（家庭支援）にも力を入れて取り組んでいます。日常保育では、子どもたちが人間として必要な基本的生活習慣（挨拶、食事、排泄、整理整頓、清潔、他者への思いやり等）が年齢に応じてできるよう支援を行い、子ども一人ひとりの健やかな成長・発達に向けて適切な援助を行っています。園が目標とする子どもの姿として、「他人に迷惑をかけずに、いたわりの心を持つ園児に」、「互いに協力できる園児に」、「個性を大事に健やかに成長する園児に」、「明るく素直で礼儀正しい園児に」を掲げ、目標を目指して保育に当たっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年 12月 9日（契約日） ～ 2020年 6月 12日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2014年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 【キリスト教教育の推進】

●いいじまルーテル保育園の保育の特徴としてキリスト教教育があります。キリスト教教育は、園運営の原点であり保育を实践するうえでの指針になっています。「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ。」（新約聖書マタイによる福音書7章12節）イエス・キリストの教えを、朝の祈り、食事の祈り、帰りの祈りを毎日行っています。朝の祈りは、3歳～5歳児は燭台に灯されるローソクを前に子どもたちは胸に手を当て讃美歌を歌い、お祈りをします。お祈りをする子どもたちの姿、顔はとても厳かです。1歳児、2歳児は各保育室でサークル（ミニ礼拝式）を行っています。職員は、今日1日子どもたちに実りある保育が行えることを祈り、キリスト教の教えに沿って保育が行われていきます。

2. 【モンテッソーリ教育の推進】

●いいじまルーテル保育園ではモンテッソーリ教育を推進し、基本として、「障害の有無にかかわらず、全ての子どもは自ら成長していく力（自己教育力）を持っている」点に視点を置き、教育・保育を展開しています。モンテッソーリ教育は個別活動として、発達段階に応じて環境構成を設定して行っています。具体的にはカリキュラムに従って用意された各種教具（既成の物、職員の手作り等）に触れ、幼児の持つ自発的で創造的な関心を段階的に引き出し、教具集中を通して秩序ある自己育成を促し、育成していきます。ルーテル保育園ではモンテッソーリ教育のカリキュラムを「日常生活の練習」（＃1～＃29）、「感覚教育」（＃1～＃43）、「言語教育」（＃1～＃42）、数教育（＃1～＃35）とし、各＃1から、年齢別カリキュラムのNO.が順番に割り振られており、順に覚えることを基本とし（異年齢で行う際は順番通りでないケースもあります）、全体的な計画の附表として展開しています。

3. 【その他各種の幅広い教育の推進】

●その他の取り組みとして3歳以上児の「国際の時間」、「音楽の時間」、4、5歳児の「絵画の時間」です。国際の時間では、昨今、国際交流の波に覆われており、英語を学ぶことのみではなく、日本人以外の人々と幼少期から交わることが国際感覚の始まりになることを踏まえ、園では、「体を使って学ぶ英語」とし、身近に国際感覚豊かな講師と接する時間を設けています。音楽の時間では職員のピアノ伴奏に合わせて明るく、楽しく歌い、音感を養っています。絵画の時間は、美術大学卒の講師が特別絵画指導に来園し、子どもたちの創造力の芽を育み、上手に絵を描くことより子どもの持つ感性を伸ばしながら、子ども一人ひとりが持っている力を育むよう展開しています。心身の活動を十分に行い、基礎体力を養い、また、日頃の職員以外の大人と交流を持つことで視野を幅広く広げるよう支援しています。

◇改善を求められる点

1. 【次期幹部職員の育成】

●職員の人材確保・採用については、いいじまルーテル保育園のみではなく、法人系列保育園全体としても採用・定着等に苦慮し、職員動向については系列保育園間の異動等により主任クラスが手薄であることを鑑みます。職員の補充は急務ですが、全園の体制を維持するためには園長の存在は重要であり、主任クラスからの昇格を考えて実施すると、実務の核である主任が不足する体制にあります。キャリアアップの制度を最大限有効活用し、早期に次期幹部職員の育成に努めていかれることを期待いたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：社会福祉法人イクソス会 いいじまルーテル保育園

施設長：山口 卓也

（※受審時の施設長： 実方 かづえ）

＜評価に取り組んだ感想＞

事前説明の際に、調査員の方には当園まで足をお運びいただき感謝いたします。調査票の疑問点について、ご説明いただけたことは、本当にありがたいことでした。また、当初ご提案いただいた調査予定日を、当園の行事のために延期していただけたことで、普段通りの保育に臨めたと感じています。

「第三者評価は、監査とは異なるもの」と、お教えいただいております。

ですが、それでも第三者評価を受ける当日になると、調査員の方を迎える際に、園側は硬くなるものです。

調査員の方には、当園の取り組みについて関心や興味をもって接していただけたことで、面談の時間も打ち解けた雰囲気の中で行えました。

今回の評価を通して、当園の良さを改めて発見させていただけた思いがいたします。

＜評価後取り組んだ事として＞

まだ、職員間で振り返りの機会を設けておりませんが、次のことを検討しています。

1. モンテッソーリの教具について。

保護者の目にふれる機会を多く設けていきたいと考えています。

方法としては、掲示板を利用して、写真や図解で解説するものです。

2. キリスト教保育について。

礼拝にまつわる話や写真も掲示することを検討中です。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり